

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470200395
法人名	社会福祉法人 和仁福祉会
事業所名	ぬくもりの家
所在地 (電話番号)	石巻市大瓜字箕輪17番地 (電話)0225-23-3822
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェルビル2階
訪問調査日	平成19年7月10日

【情報提供票より】19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年3月15日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.0人

(2)建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500円	その他の経費(月額)	個人経費自費負担円	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 1200円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.1歳	最低	74歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 仁明会 齋藤病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは社会福祉法人和仁福祉会が運営する第二和香園に併設されていて石巻稲井ディサービスセンター・稲井居宅介護支援事業所と共にある。昔小学校があった小高い場所にあり、周りは緑に囲まれていて町の民家からは少し離れた位置になっている。そのためホームとして一番力を入れているのは地域との交流で、なかなか進まない地域交流をぜひ実りあるものとしたと、様々な試案を考え施設長以下全職員が一丸となって懸命に取り組んでいる。また若手職員の育成にも力を入れ研修はもちろん将来的にも安定するよう諸策が考えられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員に関する事では会議の持ち方が検討され2ヶ月に1回は全員参加とする。会話は相互注意して対応。医療関係では家族と話し合い対応は協力して柔軟に行っている。地域交流については重点的にさらに取り組む意欲を尊重したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員各項目を記入し、一回だけだったが全員で話し合いの場を持ち、その上で管理者がまとめるという方法で行われた。今後さらに話し合いでお互い色々の気づきが引き出されるようになることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はどうしても事業所の色々な取り組みの報告や改善課題(評価の報告もあるが)等で事業所内の事項が多くなるが、今取り組みに力を入れている地域交流に関しても何らかの施策の検討がなされる事を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日ごろから家族に対しては話しやすい雰囲気作りや困った事があつたらすぐ言ってもらえるような体制づくりがなされていて良い関係に進展しているので、これからもホーム側から積極的に話し合いを持ち、良い関係が長く保たれて行くようお願いしたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流は地理的な問題もあり色々苦勞されているが地域密着型サービス事業所として地域に届けこむ熱意を持ち努力されているので、防災訓練や避難訓練も地域の人たちと一緒に出来るようになる事を期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の今までの暮らしが継続できるよう会議その他の職員の話し合いで理念が作られているが、充分ではない。	○	地域密着型サービスとしての面をさらに加えていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、日々の引継ぎや職員の会議等で話し合い実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入していないが地域の盆踊りや文化祭の行事には入居者も参加している。また小学生との行事も企画運営され交流に努力している。さらに地域の一人と認められる働きかけをお願いしたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組んでおり、評価は内部研修等で改善やサービスの質の向上に役立てている。さらに話し合いの場を多く持つことで自らの気づきやアイデアの掘り起こしにつながる事を期待したい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の取り組み内容や改善課題が報告されて、双方向的な話し合いが行われる会議となっているが、事業所内の説明にとどまっている。	○	地域にとけ込むためのよい機会の会議とも捉え、さらに地域との交流を深めていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センターに法律の考え方や理解の指導をしてもらっているし、サービスに生かす相談もされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には利用料支払い時や面会などで来所された時1ヶ月の生活の様子や健康状態を話し、来所のむずかしい家族には月1回書面などで生活の様子を伝えている。金銭面等は毎月確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから話しやすい雰囲気作りを心掛け、不満や苦情を要望として捉え、職員会議等で話し合っている。具体的例として通院の際の付き添いや状況の情報の共有のあり方等、双方の希望を実現している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者や家族との信頼を築くため、職員の異動は最小限にとどめるよう配慮されている。また馴染みだった職員との交流も切れないよう対応されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し内部・外部の研修や学習会には多くの職員に参加受講してもらうように配慮されている。また研修後は発表を含め日常の仕事に研修結果を生かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、ブロック会議や研修会には交代で全職員が参加している。この機会が日ごろの悩みやストレスの解消に役立ち、さらにサービスの質の向上や意欲の向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から職員と馴染みになれるよう配慮して準備しているが、やむ得ず急な入居となった場合は本人が安心して出来るよう家族と相談して色々な対応をとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として得意分野で力を発揮してもらったり、作業方法を教えてもらったりしてお互い感謝の気持ちで支えあえる配慮をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言葉や表情・行動から意向の把握に努め家族や周囲の人達から得た情報も検討している。		
対応					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の視点に立って地域でその人らしく生活できるよう支援していくことに配慮し、本人や家族の意向を聞いて月1回ケアカンファレンスを行っている。この話し合いに本人・家族が入れる時は一緒に入ってもらうことにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は実施状況表で遂行状況や効果を把握し、おおむね3ヶ月に1回は介護計画の見直しを行い関係者との話し合いをしている。また状況の変化や必要に応じて毎月見直すこともある。尚、家族の確認・同意した事がすぐにわかる記載があればさらに良い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ通院や特別な外出等必要な支援を柔軟に行っていて、個々の満足が得られるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にそって個別のかかりつけ医の受診を受けているし、通院にも必要があれば同行している。また協力医も月1回は来所している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者・家族と終末期の支援のあり方について話し合い、事業所として出来ること出来ない事を説明している。さらに入居中に状態が変わりそうな時は早めに話し合いをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議等でプライバシー確保について関わり方を再確認し、名前の呼び方・記録の管理・誘導の仕方等、日々のケアに生かされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切に、出来る限り本人の希望にそった趣味活動や生活リズムになるよう柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう買い物・調理・食事の盛り付け・後片付け等各入居者に出来る事を共同でして貰い、食事中も会話をかわしながら食べられるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行い、入浴の日や時間帯に希望のある人にはその希望に対応し、あまり入浴を好まない人には声掛けやタイミングを工夫して出来るだけ入浴してもらうように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者に張り合いや喜びのある日々を過ごしてもらえよう、気晴らしやミニドライブに出掛け、後日その時の話して盛り上がった、ホーム内での役割活動でも職員が感謝の言葉をかける事で入居者の表情が生き生きしたりするよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの散歩や馴染みの場所・店等には随時出掛けられるよう支援しているし、楽しみな笑顔の多い買い物にも同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外日中は玄関に鍵はかけていない。出入りの安全確認のため玄関にチャイムはあるが外に行きたい人には職員が同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルは作成されていて年2回入居者を交えた避難訓練が行われ、うち1回は夜間想定となっている。また地域の消防団との協力体制も出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の様子や各チェック表を使って全職員が入居者の状況を把握し、必要に応じて補食やゼリー等代替食品や飲み物を使用し、食事についても栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
あ					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや和室は居心地よく過ごせる共用空間となっていて季節感もあふれ、明るさや音の大きさ、換気も適当である。天井は高く壁面や装飾も落ち着いた雰囲気、数箇所ある廊下や玄関の座れる場所もくつろげるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具を持って来てもらい家と同じような配置にして、安心して生活出来るように支援している。写真集や使い慣れた鏡台を持って来て愛用している入居者も居る。		